

世界へのプレゼントになろう

事務局　四国中央市金生町下分８６５　四国中央商工会議所内
http: // www.iyomishima-rc.jp　ＴＥＬ(0896) 58－3530
E-mail:iyomis@iyomishima-rc.jp　ＦＡＸ(0896) 58－6294
例　会　金曜日　12：10 ～ 13：10
■会長／中野　哲　■幹事／山内一正　■広報委員長／園部忠幸

Be a gift to the world

2015～2016年度国際ロータリー会長

No.１８
平成 27.10.30
第２９５８回

職業奉仕委員会
「マーケティング」あれこれ



委員長　森　川　教　義

今日ではマーケティングなる用語は一日一度は目にし耳にする程、身近な存在となりました。名称に親しめば親しむ程その物・事・人物を理解したと錯覚してしまいがちですがそうでないことは申すまでもありません。例えば西郷隆盛の名は日本人であれば幼少の砌から承知していても、西郷が明治大帝に愛された大人物であったことなどを知る人は稀少であるように……

マーケティングはアメリカで発祥し、日本に導入されました。導入期についてはお手元の日本経済新聞 2003 年（平成 15 年）12 月 24 日付文化欄「我らマーケティング仲間」及び当ロータリークラブ会報の 1993（平成年）年 10 月 1 日第 1806 回「流通をめぐって」の拙稿を御参照下さい。

社会科学が相当発達した当時にあって「マーケティング」が何故日本語になってないのか？一時にせよマーケティングを学ぶ場所に身を置いていた自分は「論語読みの論語知らず」「紺屋の白袴」でないのかと焦躁感にかられました。横文字のままでの使用の理由として考えられたのは（1）誕生国のアメリカに敬意を表して（2）パックスアメリカーナーにおもねって（3）恐れ多いことではあるが日本の学会の怠慢－明治期欧米よりおびただしい学術用語が流入したが、苦心の末日本語に訳されている－「翻訳語成立事情」柳父　章著岩波新書参照などが考えられました。2004 年（平成 16 年）日経文庫「マーケティングの知識」田村正紀著に出会いました。長くなりますがそのまま引用いたします。(2) マーケティングの誕生　マーケティングは、いつ、どのように誕生したのでしょうか。英語の辞書を引いてみますと、MARKETという英語には「市場」という名詞の意味のほかに「市場で売りさばく」「市場に出す」という動詞の意味があります。この動詞にINGをつけて、動名詞化したものがマーケティング（MARKETING）です。20 世紀の初頭に、アメリカ合衆国で初めて登場しました。その後日本や他の経済発展国でも、マーケティングは外来語として広く普及するようになりました。日本の産業界にこの用語が定着したのは、1960 年代です。－以下略－　将にコロンブスの卵で自嘲からやっと解放されました。マーケティングが最も進んでいるのが 1 位アメリカ 2 位日本 3 位イタリア 4 位フランスといわれています。学問・経済両面で大国といわれるドイツが後塵を拝しているのはドイツ社会のマイスター制度の存在であるとされます。

先の小論でふれましたように斯界で最も権威あるアメリカマーケティング協会Ａ・Ｍ・Ａ（通称アマ）の定義が 1985 年（昭和 60 年）第一次から第三次まで 12・13 年間隔であったのが 25 年振りに大改訂され、新定義は「マーケティングとは、個人および組織の目標を満足させる交換を創造するために、アイデア・財・サービスについて、コンセプトづくり・価格設定・プロモーション・流通を計画し、実行する過程である」となっております。第三次改訂の定義と比較すれば、新定義は個人および組織の目標を満足させる交換を創造するためという目的が明示されていること。組織という表現で、マーケティングが企業活動に固有のものでなく、非営利組織にも応用されるべきであることを示していること。財・サービスにアイデアが追加され、非営利組織にも対応するようにされていることなど大きな改定がなされたとされます。マーケティング導入期の日本では、銀行界においては、店舗に入り行員の方に用務を依頼して待機用の椅子席のことを客溜りと呼んでおりました。銀行制度はイギリスから日本に入ってきた関係上、霧が多く、雨傘が必携であったロンドンでは店舗は良く言えば荘重であるが暗い印象を受けるとされていましたが近年では明るく入りやすい店舗に改善されてきており流石と存じております。紙業界においては流通統計に生産・払出・在庫と表示されており又街にはまだ琺瑯製の看板が残っており、煙草・塩・切手売捌所と書かれておりました。私は払出の用語に違和感を覚え抵抗を強く感じました。製紙メーカーの優秀な若手営業マンが来社した折、お互いマーケティングを学んだ身、払出と前近代的用語を使用するのであれば、営業なんて言葉を使わずに配給部・配給課・配分係と言わねばならない。田舎の小さい紙屋では社会的影響力は小さいので、貴君のように大事メーカーが改善してくれたら有難いのだがと進言したところ大いに共鳴してくれ、同氏はその後社内文書に払出の表示を一切使用することなく出荷に改善してくれました。現在同氏は日本を代表する製紙メーカーの取締役営業本部長として大活躍されておりますし、業界誌・紙・経産省の統計にも生産・出荷（販売)・在庫と表示されておりとても喜ばしく存じております。

そのような状況下、マーケティングは輝いて見え、大変魅力的でした。

早稲田大学商学部の紀要である「早稲田商学」誌上で宇野政雄教授がA・M・Aの機関誌である「THE JOURNAL OF MARKETINGJ 1958 年（昭和 34 年）1 月号にシカゴ大学のダウド博士が「日本の卸売マーケティング」(WHOLESALE MARKETING IN JAPAN) と題する論文を発表され、日本の卸売マーケティングの後進性を鋭く指摘されていると紹介されました。それに刺激され、それが契機となって定期購読を始めると共に同号のバックナンバーをも申込みいたしました。比較的安価に入手出来た上に、誌面１ページ毎にミシン目が入つており、記事毎に整理出来るように工夫されており感心いたしました。又昭和 30 年台から船便利用の封筒がクラフト紙からプラスチックフイルムに変り透明であるため封を切らなくとも表紙が見透せました。現在日本でもほとんど雑誌がフイルムを使っておりますが米国の切換えの早さに驚かされました。森実達治会員が流通の中抜きの懸念についてかつて例会で発表されておりましたが、弊社の北海道支店が入居している石狩新港卸センターが平成 7 年（1995 年）3 月 7 日第 2 回のオーナー会議を開催し、卸売問題の権威者である波形克彦先生をお

招きし『これからの卸売問題は「問屋革命」』の演題で御講演されました。
直後の懇親会で私は最遠方からの参加ということで先生の隣席という栄を得、私の『流通をめぐって』の小文をお目通しいただけることになり、郵送いたしましたところ、折返し「卸有用論を信じて」とサインされた御著書『卸売業の「経営」活性化のすべて』に加えて、拙文に対し「共に有用論を普及して行きたい。」との過分の御講評をしたためた親書をいただき、大変感激いたしました。「卸売業経営にたずさわる者が、卸有用性についての信念をもって事に当るべきであるとの思いから、細々勉強してきたもののまとめが前述の小文であり、所論が権威者に認知されたことを改めて再確認し、卸売業は将来共々厳しいと存ずるが、勇気をもって業務に一層邁進、精進されんことを念じている。」と幹部社員に発翰した次第であります。いわゆる中抜きが、経済の合理性の追求として正当性を主張出来るのか？職業倫理上忌避されるべきものであるか？これからもじっくり究明するに値する問題であると存じます。Ａ・Ｍ・Ａのマーケティングの定義が変更されるように、マーケティングも時代と共に変化、進歩いたしております。卸売業をテーマとして商学博士を取得された方は長い歴史の中でも、数える程しかおられません。誠に僭越でございますが、御子弟やお知り合いに商・経済学部を進学志望の方がいらっしやいましたら卸売業発展のため、卸売業の研究の道に是非共お進みいただき度く、何卒よろしくお願い申し上げます。卸有用論に立脚した文献として「問屋と商社が復活する日」松岡真宏着　日経BP社「稼ぐ仕組み」小川進著　日本経済新聞社「卸売が先進企業になる法」関口壽一・三上慎太郎・寺島正尚著　日刊工業新聞社などがあります。以上述べましたことに御批判・御叱正いただければ誠に幸に存じます。

ｃｆ.（1）日本における「マーケティング元年」は日本の企業に市場担当などが置かれ始めた 1953（昭和 28）年であると早稲田大学の宇野政雄教授は位置づけられた。
（2）日本生産性本部会長であった石坂泰三氏は自ら団長としてマーケティング視察団を率い 1956（昭和 31）年訪米された。同氏は東芝社長であり、財界総理といわれた経団連の会長であった、この事象は経済界がマーケティングの重要性を認識し、その導入への起爆剤となると共に、その普及に拍車をかけたことを銘記する必要がある。
（3）非営利組織とは教育（学校）・医療（病院）・行政などの機関・団体である。行政については官尊民卑の思想の残渣が感じられたのはさほど記憶に古いことではなかった。

ボランティアの森植樹活動報告

ロータリー財団委員長　藤　田　誠　一

去る１０月３１日㈯午前９時３０分富郷ダム現地集合で、各種団体約５０名が植樹作業と育樹活動を行った。
これは、篠永靖司会員の尽力により、ボランティアの森委員会にお声掛け頂き、ロータリー財団の助成事業活動として、ロータリー財団が主催となり事業を行った。
開会行事では、伊予三島ロータリークラブを代表して財団委員長の私が財団活動への協力に感謝しての謝辞を述べた。
尚、伊予三島ロータリークラブからは、財団委員長の藤田誠一会員・篠永靖司会員・今村準一会員・石川　勉会員の４名が参加活動した。
活動はサクラ・ミツバツツジをはじめとして、２０種類１８０本の樹木を植栽し、昼前には予定の作業を完了し終了した。

ボランティアの森植樹活動報告の記録







第２９５８回　　例　　会　　記　　録　　平成２７年１０月３０日

開会　中野　哲　会長

出席報告
出席会員（３８名中）　３０名
出席率　７８．９５％
第２９５６回修正出席率　９４．７４％

会長の時間
○米山記念奨学会～米山功労者寄付の感謝状
第５回マルチプル米山功労者　外山英敏会員
第１回米山功労者　森川教義会員

○定例理事会報告
・台風18号等大雨災害義援金の協力について　承認
・社会奉仕委員会より、
ボランティアの森への寄付協力について　承認

・１１月度プログラムについて　承認
11/ 6　ロータリー財団委員会
11/13→８日（日）に変更
親睦･ニコニコ委員会『上期親睦家族会』
11/20　社会奉仕委員会
11/27　卓話（内部）、定例理事会

幹事報告
・山田戒乗ガバナー～ガバナー公式訪問の御礼状
・ガバナー事務所～第３７回ＲＹＬＡセミナーの報告書
・例会変更通知
（川之江）
①日時　１１月　３日（火）　休会（文化の日）
②日時　１１月１７日（火）　職場訪問例会

例会行事
職業奉仕委員会　森川教義　委員長

11月13日→8日㈯プログラム予定

親睦・ニコニコ委員会
『上期親睦家族会』